



**BUSINESS
REVIEW
2010**

第2四半期累計ビジネスレビュー
2009年9月1日～2010年2月28日

株式会社 ファーストリテイリング

GROUP HIGHLIGHTS 2010

▶2010年8月期第2四半期累計、連結売上高4,709億円(前年同期比31.8%増)、営業利益998億円(同43.0%増)の大幅な増収増益

▶ユニクロ: 日本国内と海外ともに大幅な増収増益を達成、海外での店舗数は125店舗(2月末時点)

▶ユニクロ: ヒートテックの販売好調、グローバルで5,000万点を完売

▶ユニクロ: デザイナーのジル・サンダー氏との取り組みによるユニクロ「j」を全世界で展開、「j」はユニクロのブランド認知度アップに貢献

▶ユニクロ: 日本で行った「ファーストリテイリング創業60周年記念キャンペーン」が大きな話題に。初日の11月23日朝6時、銀座店に2,000人の行列

▶ユニクロ: グローバル旗艦店のパリ オペラ店は想定以上の売上を達成

▶ユニクロ: 4月2日、ロシア1号店をモスクワにオープン

▶国内関連: 好調維持のジーユーは、大幅な増収増益を達成

▶グローバルブランド: セオリー、コントワー・デ・コトニエの既存店売上高が増収に転じ、業績は回復基調へ

▶配当金: 中間配当金は1株当たり115円、年間では230円を予定



ユニクロ RUSSIA

4月2日、ユニクロがついにロシアに1号店をオープンしました。ユニクロアトリウム店は、世界の有力ファッションブランドが集まる、首都モスクワでも集客力・知名度がトップクラスのショッピングセンターにあります。日本を代表するグローバルブランド「ユニクロ」をロシア全土に発信し、ロシアのお客様の心をつかみます。



真のグローバル リテラーへの挑戦

2010年8月期上期は、過去最高の営業利益を達成することができました。世界市場で勝ち抜いていくために、真のグローバルリテラーへの挑戦が、今後も続きます。

代表取締役会長兼社長

柳井 正

世界中のお客様からの強い支持を実感

昨年度に引き続き2010年8月期上期も、大幅な増収増益を達成しました。最大の要因は、ユニクロ事業の拡大です。特にニューヨーク、ロンドン、パリのグローバル旗艦店の売上が好調で、出店しているすべての国で、この上期に黒字を計上することができました。

これは、世界中のお客様からユニクロが強い支持を得はじめた証だと思います。H&M、ZARA、GAPといった世界のグローバルリテラーと伍して戦える力が、我々にはある。ひょっとしたら、追い越せる可能性もあると、意識しはじめています。

機を逃さずに、グローバル展開を推進

ユニクロのグローバル展開が軌道に乗りはじめた現在、このチャンスを最大限に生かそうと考えています。パリやニューヨークに1店舗だけではなく、5店舗~10店舗と出店し、より強い存在感をもつブランドにしなければなりません。そのため来年度には、世界の競合がひしめくニューヨーク5番街にグローバル旗艦店を出店する計画です。

また、経済成長率が著しいアジア市場においては、中国・香港、韓国を中心に出店を加速化し、アジア市場で圧倒的なナンバーワンになることを目指しています。2010年5月にオープンを予定している上海のグローバル旗艦店は、中国市場における事業拡大の起爆剤になると期待しています。

社員一人ひとりが、グローバル化に対応

海外ユニクロ事業の売上高は、ようやくユニクロ事業全体の1割を超える水準になりました。明確な目標として「今後5年間で、海外ユニクロの事業規模が国内ユニクロを越える」ことを掲げ、成長を加速していきます。

こうしたグローバル化に伴い、海外市場へ「民族大移動」するつもりで心構えを全社員がもち、準備をしっかりと進めています。今後は、採用から育成までをグローバルで行う体制を整え、世界中で活躍できる店長を毎年1,000名送り出したいと考えています。

これからもファーストリテイリンググループは、品質にこだわり続け、本当に良い服をお届けし、世界中のお客様に良い服を着る喜び、幸せ、満足を提供し続ける企業でありたいと思っています。



UNIQLO FRANCE S.A.S.
COO
真田 秀信

入場制限するほどの行列に、成功を実感

2009年10月にオープンしたユニクロのグローバル旗艦店パリオペラ店では、お客様の行列が1カ月以上も続きました。ニューヨークのグローバル旗艦店同様、オープン時に行列ができて当たり前。そうでなければ成功はないというつもりで準備を進めていましたが、オープン後1ヶ月もの間、行列が続いたことは驚きでした。口コミでどんどんお客様が増えていく様子に、パリで受け入れられたのだ、と確信しました。

パリでの成功を生んだ「グローバルワン」 世界市場での飛躍につながります

ユニクロのすべてが、パリでは新鮮な驚きに

品質の良さと手頃な価格がユニクロの魅力なのはもちろんですが、お待たせしないレジやきれいに並べられた商品も、パリで高く評価されました。「グローバルワン※」の精神で、日本では当たり前のことをパリでも地道に実践したことが受け入れられて、世界市場への飛躍の手ごたえをつかんだ気がします。

「グローバルワン」を徹底的に実行するために、店舗オペレーションに関しても現地の事情に合わせて基準を変えることはせず、ユニクロの仕事のやり方をスタッフに浸透させています。オープン以来の成功が全スタッフの納得と信頼につながり、現在ではユニクロらしさを体現する良い循環が生まれていると思います。

高品質で手頃な価格のブランドで、日本と同じユニクロのサービスを提供することが、パリのお客様を感動させたようです。

※グローバルワン:「あたかもひとつの会社のように経営していく、世界中で一番良い方法で経営していく」というファーストリテイリンググループの経営方針です。



フランスでナンバーワンになるために、毎日が勝負

パリ オペラ店は、今日も全世界のユニクロでトップクラスの売上を生み出そうとしています。私たちは毎日、新店のつもりで店を開け、世界一厳しいお客様の視点で店内をチェックします。それを続けることが、フランスでナンバーワンになる道なんですよね。

パリ旗艦店の話題がロンドンやニューヨークに瞬時に大きく伝えられたように、フランスでの成功は、欧州そして米国を含む世界での成功へのステップだと思っています。

今後は、もっとお客様に喜ばれるブランドになるために、パリ市内に複数の出店をしていきたいと考えています。

「ユニクロに行けば、何か新しく楽しいことがある」というニュースを発信し続けることが、大切だと思っています。



お客様に服の楽しみ方の提案をしたい

ユニクロは、販売数が非常に多いので、他の方とバッティングしない「自分のお気に入りの必ず見つかる」という楽しみ方を提案したいと考えています。例えば2009年の秋冬は、ユニクロの定番商品として人気の高いフランネルのチェックシャツに、100バリエーションを用意しました。ワンシーズンに100のバリエーションも創作するなんて、どこのアパレル会社もやってないのではないのでしょうか。

私たちの仕事で最も大切なのは、コンセプトづくりです。ファッションのトレンドや販売データを見ながら、担当マーチャンダイザーとデザイナーたちが集まり、商品の世界観を共有します。ファッショントレンドも大事ですが、どんな生活シーンでお客様に着ていただくかを考えながらコンセプトを創造するのが、新鮮な提案には重要だと思います。

QUALITY

理想をとことん追求したいから、 定番商品の細部にこだわります



ファーストリテイリング グループ執行役員
株式会社ユニクロ 商品本部 MD・UU・海外商売統括担当
香川 雅哉



細部へのこだわりは、 日本人の得意分野

2009年秋冬のフランネルチェックシャツに関しては、3つのコンセプトであるモノトーン(白黒基調)、クラシック(英国の伝統調)、そしてヴィンテージ(古着っぽさ)を決定し、とことんこだわりをもって、シャツをデザインしていききました。

ユニクロにはモノづくりにこだわりをもつ社員が多くて、私もその一人ですが、けっして妥協することがありません。例えば、フランネルシャツでは両ポケットにするかどうか、ボタンはどうするかなど、細部まで考え抜きました。

お客様の声にしっかりとお応えしていく

以前、「ユニクロの柄は古着っぽいけれど、新品すぎてつまらない」というご意見をいただいたことがあります。その声に応えるために、2009年秋冬のヴィンテージシャツでは、何回も洗濯して味の出た毛羽感を出したいと思い、洗いの工程を何度も何度もやり直して、満足のいくものに仕上げました。

ユニクロらしい手頃な価格で、理想とする服に近づける。自分が200点だと思えるものを生み出して、やっとお客様に100点をいただけるのだと言い聞かせ、これからも妥協せずにやっていきます。

+J

Open the Future

Luxury will be simplicity.
Purity in design, beauty and comfort for all.
Quality for the people.
Basics are the common language.
The future is here: +J

新しいファッションのステージへ ジル・サンダー氏との取り組みが、 ユニクロの未来を開放します

高級ブランドを手掛けてきた世界的に著名なファッションデザイナー Ms. Jil Sander(ジル・サンダー氏)との取り組みにより実現したコレクション、ユニクロ「+J」は、2009年10月に世界デビューを果たし、東京、パリ、ロンドン、ニューヨーク、上海、香港という世界のファッション都市で熱狂的なファンを獲得しています。

「+J」は、ジル・サンダー氏がこだわり続けてきた「クオリティー(高品質)&ピュアネス(デザインの純粹さ)」とユニクロの「ファッション・ベーシック」が融合したコレクション。ベーシックでありながら、身体にフィットする独自のシェイプラインをもつ知的なファッションです。「シンプルであるがゆえの贅沢さ」「あらゆる人への高品質」な服を、見事に具現化しています。

「+J」は、ユニクロがこれまで以上に新しい価値をもつ服を創造する原動力となり、ユニクロの未来をより革新的で、より期待できるものへと大きく変える可能性を秘めています。

「Open the Future(未来の開放)」という「+J」のコンセプトそのままに、ユニクロを新しいファッションのステージへと導き、その未来を開放するコレクションであると確信しています。

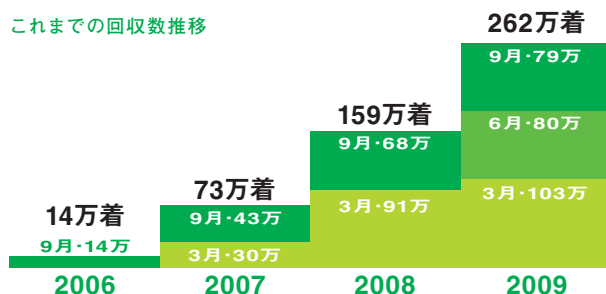


UNIQLO RECYCLE

ユニクロの全商品リサイクル

年中いつでもお預かりします

これまでの回収数推移



2010年3月1日から、 店頭で毎日回収しています

株式会社ユニクロは、2006年からCSR活動の一環として、ユニクロで販売したすべての商品を対象に「全商品リサイクル活動」を行っています。お客様がご不要になった衣料をユニクロの店頭でお預かりして、UNHCR(国連難民高等弁務官事務所)とのパートナーシップのもと、回収商品の約9割をリユース衣料として世界中の難民・避難民に寄贈しています。また、リユースに向かない衣料は、電気エネルギーや工業用繊維などの材料にリサイクルしています。



2009年9月、ネパールの難民キャンプへ15万着を寄贈しました

これまで年3回実施してきた回収を、2010年3月からは、年間を通して毎日店頭で回収することになりました。これまで以上に多くの衣料を回収し、世界で約3,000万人といわれる難民・避難民の一人ひとりに衣料をお届けしたいと考えています。

ユニクロでは、お客様に長く着ていただける本当に良い服を生産・販売するだけでなく、ご愛用いただいた後の商品をお預かりして、リユース、リサイクルすることも重要な責務だと考えています。「世界を良い方向へ変えていく」というCSRビジョンに基づいて、服の価値を最大限に活かすことを目指し、全商品リサイクル活動を続けていきます。

当第2四半期累計の連結業績は、売上高4,709億円(前年同期比31.8%増)、営業利益は998億円(同43.0%増)、純利益は553億円(同55.7%増)と、大幅な増収増益を達成しました。

連結売上高の76%を占める国内ユニクロ事業は、新商品の好調、ヒートテックの販売増に加え、パリ グローバル旗艦店の成功、デザイナーのジル・サンダー氏との取り組みによるユニクロ「+J」の販売開始などのニュースにより客数が大幅に増えたことで、既存店売上高は13.1%と好調に推移しました。また、粗利益率や経費比率が改善したことで大幅増益となりました。

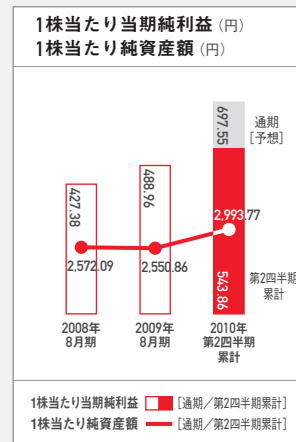
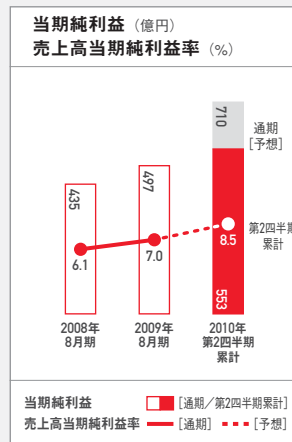
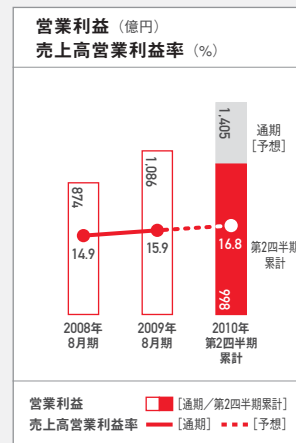
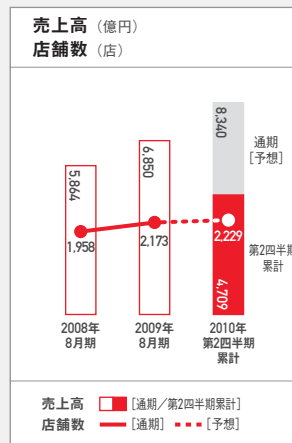
海外ユニクロ事業も、アジアでの出店が順調に進んだこと、

グローバル旗艦店の売上が好調なことから、大幅な増収増益となりました。この第2四半期末での海外店舗数は125店舗となっております。国内関連事業は、ジーユー事業が増収増益と好調だったものの、靴事業とキャビン事業は赤字でした。グローバルブランド事業は、セオリー事業を新規に連結したことで大幅な増収増益となりました。セオリー事業とコントワー・デ・コトニエ事業は欧米市場で売上トレンドが底を打ち、採算も改善傾向にあります。

なお、当期の1株当たり中間配当金は115円とし、年間配当金は230円を予定しています。この年間配当金は、前期に比べて70円の増配となる予定です。

3年間の連結業績推移			
	2008年 連結会計年度末	2009年 連結会計年度末	2010年 第2四半期累計期間
売上高(百万円)	586,451	685,043	470,970
営業利益(百万円)	87,493	108,639	99,885
売上高営業利益率(%)	14.9	15.9	21.2
当期純利益(百万円)	43,529	49,797	55,356
総資産(百万円)	404,720	463,285	563,413
純資産(百万円)	264,014	261,413	307,046
自己資本比率(%)	64.7	56.0	54.1
自己資本当期純利益率(ROE、%)	17.3	19.1	19.7
フリーキャッシュ・フロー(百万円)※1	71,915	24,941	123,854
現金及び現金同等物期末残高(百万円)	169,888	169,574	276,569
1株当たり当期純利益(円)	427.38	488.96	543.86
1株当たり期末純資産(円)	2,572.09	2,550.86	2,993.77
1株当たり年間配当金(円)	130.00	160.00	※2 230.00
(1株当たり中間配当金)	(65.00)	(75.00)	(115.00)
連結配当性向(%)	30.4	32.7	※3 33.0
発行済株式数(株)	101,850,074	101,785,310	101,785,081
時価総額(億円、期末日終値ベース)	11,335	11,349	15,911
期末総店舗数(店)	1,958	2,173	2,161

※1 営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー
 ※2 期末配当金は115円を予定しておりますので、通期では230円となる予定です。
 ※3 期末連結配当性向の予想を記載しております。



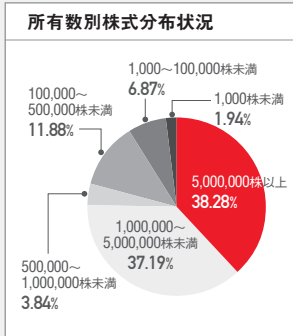
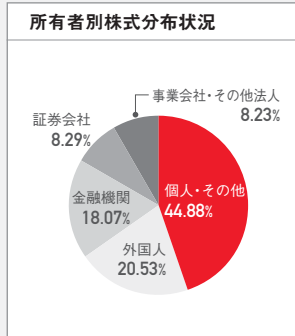
四半期連結貸借対照表			
	単位:百万円		
	前第2四半期 累計期間末 2009年2月29日現在	当第2四半期 累計期間末 2010年2月28日現在	前連結会計 年度末 2009年8月31日現在
資産の部			
流動資産:			
現金及び預金	52,670	108,347	43,876
受取手形及び売掛金	12,919	17,787	15,213
有価証券	174,427	168,560	125,875
たな卸資産	56,504	70,595	74,580
その他	28,436	34,572	38,625
流動資産合計	324,959	399,864	298,171
固定資産:			
有形固定資産	38,937	48,581	45,946
無形固定資産	37,364	51,389	55,312
投資その他の資産	61,675	63,578	63,854
固定資産合計	137,976	163,549	165,114
資産合計	462,936	563,413	463,285
負債の部			
流動負債:			
支払手形及び買掛金	92,582	105,806	56,930
未払法人税等	27,679	40,120	27,022
その他	66,454	92,377	91,647
流動負債合計	186,718	238,306	175,602
固定負債:			
長期借入金	11,819	10,771	17,980
その他	5,865	7,288	8,288
固定負債合計	17,685	18,059	26,269
負債合計	204,403	256,366	201,871
純資産の部			
資本金	10,273	10,273	10,273
資本剰余金	5,000	5,000	5,000
利益剰余金	288,838	342,146	295,442
自己株式	△ 15,568	△ 16,257	△ 16,254
評価・換算差額等	△ 31,513	△ 36,442	△ 34,822
少数株主持分	1,501	2,325	1,774
純資産合計	258,533	307,046	261,413
負債純資産合計	462,936	563,413	463,285
【連結財務諸表のポイント】			
① 現金・預金及び有価証券の合計額は前期末比で1,071億円増加 国内ユニクロ事業の営業キャッシュ・フローが増加したことなどによるものです。 うち、2月末日が日曜日であったことから増加した買掛金の影響325億円を含んで おります。			
② たな卸資産は前期末比で39億円減少 フットパークの閉店を進めたことによる靴事業での減少などによるものです。			
③ 固定資産は前期末比で26億円増加 国内ユニクロ事業の出店にともなう増加などによるものです。			

四半期連結損益計算書			
	単位:百万円		
	前第2四半期 累計期間 自 2008年9月 1日 至 2009年2月29日	当第2四半期 累計期間 自 2009年9月 1日 至 2010年2月28日	前連結会計 年度末 自 2008年9月 1日 至 2009年8月31日
売上高	357,424	470,970	685,043
売上原価	179,369	224,651	343,515
売上総利益	178,054	246,318	341,528
販売費及び一般管理費	108,197	146,433	232,888
営業利益	69,856	99,885	108,639
営業外収益	1,100	470	1,728
営業外費用	7,796	3,839	9,059
経常利益	63,160	96,516	101,308
特別利益	19	217	464
特別損失	945	1,182	6,285
税金等調整前四半期(当期)純利益	62,235	95,552	95,487
法人税、住民税及び事業税	27,323	39,949	44,939
法人税等調整額	△ 757	△ 270	493
少数株主利益	117	516	257
中間(当期)純利益	35,552	55,356	49,797
④ 売上高は4,709億円、前年同期比31.8%の増収 国内ユニクロ事業で639億円、海外ユニクロ事業で218億円、セオリー事業を 新規に連結開始したグローバルブランド事業で285億円のそれぞれ増収となった ことが主な要因です。			
⑤ 売上高総利益は682億円の増加 売上好調な国内ユニクロ事業において、売上高総利益率が前年同期比で2.3 ポイント改善したことが主な要因です。			
⑥ 販売費及び一般管理費は前年同期比で382億円の増加 販費比率が相対的に高い海外ユニクロ事業、グローバルブランド事業の構 成比が高まったことによりです。			
四半期連結キャッシュ・フロー計算書	単位:百万円		
	前第2四半期 累計期間 自 2008年9月 1日 至 2009年2月29日	当第2四半期 累計期間 自 2009年9月 1日 至 2010年2月28日	前連結会計 年度末 自 2008年9月 1日 至 2009年8月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	81,397	133,342	59,214
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 9,669	△ 9,488	△ 34,273
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 7,739	△ 14,765	△ 16,847
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 7,051	△ 2,093	△ 4,488
現金及び現金同等物の増減額	56,936	106,994	△ 396
現金及び現金同等物の期首残高	169,888	169,574	169,888
子会社の新規連結による現金 及び現金同等物増加額	82	—	82
現金及び現金同等物の期末残高	226,907	276,569	169,574
⑦ 当第2四半期末の現金及び現金同等物の残高は、前年同期末比で496億円 増加し、2,765億円となりました。各活動別では、営業活動による収入は519億円 増加し1,333億円となり、投資活動により支出した資金は同1億円減少し94億円 となりました。また、財務活動による資金の支出は同70億円増加し、147億円 となりました。			

会社概要		取締役・監査役 (2010年4月1日現在)	
商号	株式会社ファーストリテイリング FAST RETAILING CO., LTD.	代表取締役会長 兼社長	柳井 正
本社事務所	山口県山口市佐山717番地1	取締役(社外)	半林 亨
東京本部	東京都港区赤坂9丁目7番1号 ミッドタウン・タワー	取締役(社外)	服部 暢達
設立	1963年5月1日	取締役(社外)	村山 徹
資本金	102億7,395万円	取締役(社外)	新宅 正明
事業の内容	株式又は持分の所有による グループ全体の事業活動の 支配・管理等	常勤監査役	田中 明
連結従業員数	11,245名	監査役(社外)	安本 隆晴
		監査役(社外)	清水 紀彦
		監査役(社外)	渡邊 顯
		監査役(社外)	太田 穰

株式の状況	
会社が発行する株式の総数	300,000,000株
発行済株式の総数(自己名義株式を含む)	106,073,656株
株主数(自己名義株式を含む)	13,335名

大株主	持株数(株)	持株比率(%)
柳井 正	28,297,284	26.68
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	6,609,100	6.23
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	5,694,500	5.37
柳井 一海	4,781,808	4.51
柳井 康治	4,780,600	4.51
有限会社Fight&Step	4,750,000	4.48
株式会社ファーストリテイリング(自己株式)	4,288,575	4.04
有限会社MASTERMIND	3,610,000	3.40
ドイツ証券株式会社	2,904,733	2.74
柳井 照代	2,327,848	2.19



株主メモ	
事業年度	9月1日~翌年8月31日
定時株主総会	毎年11月下旬
同総会議決権行使株主確定日	毎年8月末日
期末配当金受領株主確定日	毎年8月末日
中間配当金受領株主確定日	毎年2月末日
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部(証券コード 9983)
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
電話お問い合せ 郵便物送付先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)
公告方法	電子公告により、当社ホームページ(http://www.fastretailing.com/jp/ir/)に掲載いたします。なお、事故その他のやむを得ない事由により電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。また、当社の貸借対照表及び損益計算書は当社ホームページの上記アドレスに掲載しております。
単元株式数	100株
ご注意	<ol style="list-style-type: none"> 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店にお問い合わせください。

IRホームページ紹介

<http://www.fastretailing.com/jp/ir/>



FAST RETAILING

www.fastretailing.com